

論文要旨

目的: 高校生が妊娠前教育として妊娠・出産に関する正しい知識を獲得できる授業プログラムを開発し、よりよいプログラムを探求すること。

方法: 妊娠前教育として「高校生への性教育授業プログラム」を考案し、内容や構成に関する示唆を得る授業プログラム開発研究である。文献検討の結果や性教育ガイドライン、高等学校指導要領保健体育編、稲垣ら（2011）の授業設計マニュアルなどを参考に性教育が行われることの多い保健体育科の授業プログラムの作成、評価設定を行った。生殖適齢期前にいる思春期の若者が、発達段階に応じた心身の変化に気づき、健康的な人生を送るための知識を獲得することで自分のワークライフバランスに対する自己決定能力を養える機会となり、また将来の妊娠・出産に向けての健康管理を充実させる意識啓発が期待できるように、独自に「妊娠・出産の適齢期」という小単元を設けた。作成した授業プログラムを公立高等学校の保健体育教諭へ郵送し、評価用紙による意見収集を行った。データ収集は2014年11月下旬から12月13日に実施した。研究協力者のコメントをもとに、企画を検討し、学習目標や実施方法、所要時間、使用する資料等に関して助言を受け、必要な点について修正を行った。研究に際しては、倫理的配慮を遵守して行った。

結果: 9名へ依頼し8名の協力が得られた。本授業プログラムに対し、【正しい知識を多角的に身につける充実した性教育として重要】【ライフプランを考えることは重要】と考える研究協力者が過半数を占め、平均点も5段階評価法で3.88と高値であり、本授業プログラムに対する支持は得られ、需要のあるものであった。しかし【とても大切、重要だと思うが、内容によっては学校教育の中で扱うことへの疑問や困難感】という意見が聞かれ、学校教育における性教育のあり方や難しさが示された。一方で高校生にとって必要なのは避妊とし、本授業プログラムを不要とする者もいた。妊娠前教育としての性教育を取り入れている研究協力者は8名中2名であり、実態は十分な内容ではなかった。妊娠前教育を取り扱う上での課題は、意見・コメントより{生徒要因}と{教員要因}のカテゴリに分けられ、{生徒要因}には[関心や考え方][家庭環境]、{教員要因}には[教授・学習方法][時間][公教育のあり方]が抽出された。作成した授業プログラム以外の全体的な意見では、【性教育や保健の授業に対する考え方】【当内容を授業に入れる際の困難さ、時間の制約】【社会や教育制度に対する要望】【大切な内容であり授業に取り入れたい】が抽出された。授業プログラムに対する評価点は、年齢が高い研究協力者に比べ、年齢が若い研究協力者ほど高い傾向があった。

結論: 妊娠前教育としての「高校生への性教育授業プログラム」は過半数以上の研究協力者から支持を得られたが、取り入れていくには<企画><時間設定>などの課題が示された。